

「じぶん年金」を貯めるポイント

貯蓄編

月の使えるお金をあらかじめ決めておく

手元に使えるお金があるとムダ遣いの原因に。給与から自動的に引き落とされる銀行の積立定期や財形貯蓄を活用し毎月の貯蓄を習慣にするのがオススメ。ボーナスなど大きな額が入った場合は定期預金に入れるのもひとつの手です。手元に残るお金を減らせば「つついってしまっただけ」といった自分への甘えをシャットアウトできます。メガバンクの普通預金の金利は年^{*}0.001%。利息がわずかなのに、ATMの時間外手数料が1回でもかかれば一気にマイナスに。ムダな支出は絶対×。

※2016年8月現在



投資編

資産運用の知識を身につけてお金を殖やす

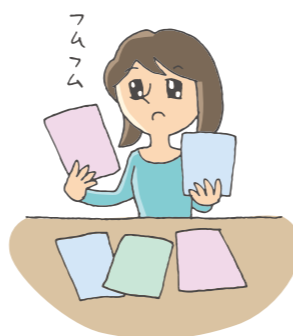
預金の金利が期待できない状態なので、金利でお金を殖やしていくことは困難です。投資を考えることも選択肢のひとつ。120万円の運用益には税金がかからないNISAなど基礎知識を身につけて、リスクを理解し自分に合ったもので資産運用することが大切です。月の積み立てを貯蓄と投資にバランスよく振り分けていくのも良い方法です。資格取得などの自己投資は大切ですが、明確な目標がなくなると始める自己投資はムダな出費の原因に。キャリアアップなど目標のための投資ならOK。

保険編

民間の保険と公的保障のバランスを確認する

公的な社会保障の変化に合わせて、民間の保険内容も変化していきます。「自分に合った保険に加入しているか」、「保険料は上がっていくプランのものか」など定期的に見直していきましょう。今はマイナス金利の影響で、個人年金保険や学資保険などの貯蓄性は低くなっています。公的な保障制度を知っておくことも大切。医療機関や薬局の窓口で支払った額が、暦月(月の初めから終わりまで)で一定額を超えた場合に、その超えた金額が払い戻される^{*}「高額療養費制度」などもあるので、民間保険と公的な保障のバランスを確認してみてください。

※入院時の食費負担や差額ベッド代などは含みません。



住宅編

将来のライフプランを立てて判断する

現在は住宅ローンの金利が史上最低水準になっていますが、不動産価格は高騰傾向にあります。金利が下がっている今だからこそ住宅購入を考えている人もいますが、安易に住宅購入に踏み切るのはストップ。結婚や親の介護などライフスタイルや将来設計によって住居環境を選択することが大事。明確なビジョンが固まるまでは、貯蓄していく方がいいかも。メリット、デメリットを良く判断して決断しましょう。

大人のマネー講座

将来への備えは大丈夫？ 今から貯める老後資金

超高齢化社会やマイナス金利など将来への不安や老後破産を心配する人も増えています。備えておくべきポイントをプロがアドバイスします！



【監修】
ファイナンシャルプランナー
世継祐子さん
企業や個人の顧問ファイナンシャル・プランナー、各種セミナーの講師などを務めている。また、テレビや雑誌などのメディア取材も多数。
<http://www.f-fukuoka.com/>



**超高齢化社会で
公的年金も変化**

日本の人口に占める65歳以上の割合は2004年は19.6%でしたが、2050年には39.6%まで増加すると予想されています。2050年になると公的年金を高齢者1人に対して、1.2人で支えることになるといわれています。これは1人で1人の高齢者を年金で支える時代がやってくるということ。こうした背景もあり、老後破産の不安を抱く人が増えているのが現状です。若い時から日常的な貯蓄とは別に老後のためのお金を少しずつでも「貯める」「殖やす」の行動を心掛けて「じぶん年金」を準備しておくことが大切です。

月のやりくりの基本



基本は毎月の手取り収入の中からやりくりを。ローンやカードのリボ払いの利息はムダな支出なので×。貯蓄を積み重ねて「じぶん年金」を準備しておきましょう。



お金を殖やす習慣



仕事を辞めると収入がなくなるので働ける限りは仕事を続けることが大切。定年後に必要なお金を知っておくと貯める目標も見えてきます。

